

## 屋久島町エコツーリズム推進協議会第3回ウミガメ保護利用専門部会 開催記録（要旨）

日 時：令和2年2月19日（水）14時～17時

場 所：屋久島町役場やくしまホール

開会后、事務局から、2月10日から予約受付を開始し、当専門部会主催の観察会であることを明記していること、また令和2年は当部会で決めるルールを試行し、令和3年から本格施行する旨を説明。続いて資料に基づき詳細に説明が行われ、協議に移った。

### 協議内容

#### 1. エコツーリズム推進法を根拠にした規制案について

##### 1) 浜への立ち入り承認人数（＝観察会の定員）について

- ・50名の定員については、異論なく確定。
- ・参加料金について、地元子ども達の参加は環境教育という観点で免除してはどうか。（傍聴）  
→公平性の観点から設定したもので、すでに地元小学校から承諾されている。（事務局ほか）  
→条例に書き込むことではないので、今後、運営レベルで検討することとされた。

##### 2) 立ち入り規制エリアについて

- ・多客時の子ども達の学習用に前浜を利用していたが、できなくなるのは問題である。（傍聴）  
→調査研究目的という範囲内で可能かどうか検討の余地がある。（環境省）  
→柔軟な制度運用は困難、浜によって規制の強弱をつけないほうがよい。（永田区長）
  - ・四ツ瀬浜において短時間の釣り人の通行が規制対象となることは、疑問。（部会長）  
→法的には規制対象。通行を「適用除外」に含めると拡大解釈が生まれやすい。（事務局）  
→調査で影響を見ながら規制内容を決めることはあり得るが、毎年変更などの柔軟対応は難しい。（環境省）
  - ・地元で反対意見が多いなら、規制区域から外すことも検討する。（事務局）
  - ・規制のためには、その必要性を示す明確な根拠を示すことが重要。（ガイド）
  - ・ウミガメ産卵地の保護をうたう屋久島として、規制の方針を明確にし、住民にも広報活動しながら、理解を得ていくことが望ましい。（中間区）
  - ・規制の実効性を担保するには保護柵が必要。（屋久島うみがめ館）  
→保護措置はきちんとするが、国立公園であるので景観上の配慮が求められる。（事務局）  
→砂浜自体が永田の重要な観光資源であり、損なわれないようにしてほしい。（ガイド、部会長）  
→卵の移植作業は、誰も立ち入らなくなるなら波打ち際の産卵巣だけになる。（うみがめ館）
  - ・終日立ち入り禁止の意味を、より明確にしたい。（環境省）  
→移植をしない自然の状態で産卵・ふ化が行われている永田浜の環境を保護することが第一義。ほかに移植作業の労力軽減、遠方での観察を回避し利用者の安全確保の意味もある。（事務局）
- 四ツ瀬浜、前浜ともに立ち入り禁止とし、現在の案で試行することを決定。（部会長）

##### 3) 立ち入り規制期間について

- ・現状の8月末までに対し、9月も相当数の観光客が浜に立ち入っており、ふ化への影響が懸念

されることから、立ち入り規制期間は、5月1日～9月30日とすることで決定。

#### 4) 浜でのライト使用について

- ・浜でのライトは最低限にしてほしい。ウミガメに色は関係なく、問題は紫外線。(うみがめ館)  
→連絡協議会で使っている「赤色LED」は紫外線が少ない。(永田ウミガメ連絡協議会)  
→安全確保の必要は認めるが照らし方の代替案はないか。(傍聴) →栗生で実際に事故が起きている以上、ライトの使用は必要である。(ガイド)  
→安全な観察会とするため「赤色LEDライト」を使用することに決定。(部会長)
- ・参加者は、赤外線カメラであっても、カメラ、スマホによる撮影は禁止とする。(事務局)
- ・周囲の宿や通行車両からの光漏れ対応については、関係者の理解、協力をお願いする。(部会長)

#### 5) 規制の適用除外について

- ・「調査研究、維持管理については適用除外」との提案どおりで試行する。(事務局)
- ・地域の将来のことを考えて、適用除外に「教育」は入れられないか。(ガイド)  
→容認すると拡大解釈で保護のための規制という根本が崩れる恐れがあり、避けたい。(環境省)

## 2. 保護・調査について

- ・町から屋久島うみがめ館に委託する調査について、事務局が趣旨を詳細に説明。
- ・うみがめ館では、全島で正確なデータを把握するため、監視業務期間外にも独自調査を実施。  
ヘッドスターティングもうみがめ館からプロに委託して飼育を行っている。(うみがめ館)  
→保護・調査業務委託について、全員異議なし。

## 3. サポートガイドについて

- ・栗生では監視業務しかなかったので、ガイドの独自性が発揮できるサポートガイドの仕組みができた。永田でも独自に前浜を案内できるなど観察会のサポートとは違う視点が必要。(ガイド)  
→言い分は分かるが、一方で永田はマンパワー不足に悩んでいる。(部会長)  
→永田での人材不足と案内の質の確保の対策として、ガイドが主体的に関われる新たな制度ができないかと提案した。(環境省)
- ・ガイドの存在意義が損なわれる恐れ。また生業がボランティアになるのも問題。(ガイド)
- ・できることから協力してもらえればと思う。メリットというより地域が困っていることに手を差し伸べてほしいというのが本音で、そこから検討をスタートさせたい。(事務局)  
→もう一度提案内容を見直すことにしたい。(環境省)

## 4. その他

- ・次の会議では、本日の積み残し分＝エコツーリズム全体構想に書き込む内容、ウミガメ観察ルールガイド、ホームページ、観察マニュアルについてご意見をいただく。

(以 上)